

第 28 号発刊によせて

平成の時代が終わりを告げ、新しい令和の時代が始まった。八ヶ岳総合博物館は開館 31 年目の新しい足跡を残すことができた。本年度も常設展示室の公開、来館者の受け入れ活動に加え、企画展、講演会、各種見学会等が行われた。また、平成 25 年度から始まった市民研究員活動は第 3 期活動が開始され、7 グループ(植物・キノコ・シダ・コケ・天文・語り伝承・実験工作)で市民研究員 92 名(2 月末)での活動が開始された。さらには、出前プラネタリウムが大変好評であり、多くの学校や公民館等から出前依頼があった。子どもたちや地域住人の皆さんと共に楽しみ、学べる充実した年となった。

企画展では「坂本養川と堰と人々の生活」を、関係諸氏及び諸機関のご協力を得て、夏から秋にかけて開催することができた。期間中は多くの方が来館された。国立歴史民俗博物館副館長の西谷 大さんをお招きしての講演会や滝之湯堰土地改良区理事長の牛山啓悟さんを講師に行われた見学会にも多くの皆さんが参加くださった。見学会では、普段は近づきにくい滝之湯堰の堰水が夕霧の滝となり渋川に落ちる絶景も目の前で見学できた。参加者の皆さんの脳裏にしっかりと刻まれ「世界かんがい施設登録」の「地元之宝」をさらによく知る学び深い見学会となった。

また、「信州哺乳動物研究の先駆者 両角徹郎先生と両角源美先生が目指した教育」も秋から冬にかけて開催することができた。期間中は、多くの皆さんが来館し、お二人の先生の研究物等を閲覧いただけた。閲覧後の感想ノートには「この博物館は、動物たちが生き生きと実際に生活(生態)している姿が一目でわかる展示があります。(他の博物館ではこのような展示はありません。)このような展示ができていのも、両角先生がおられたから実現したと思います。展示から子どもたちへの思い、動物たちへの思いが伝わってきます。また、企画展を見て、お二人の両角先生の偉大さを改めて感じました。まさに“教育=研究”を実践された先生です。これからも、博物館のジオラマ展示などを通して、多くの方々がお二人の両角先生の教育観や思いを学べるものと考えています。是非、多くの皆さんに来館して体感してほしいと願っています。」と書かれていました。

哺乳動物の専門的な研究者であり、尚且つ子ども達を真に愛した教育者であった偉大なるお二人の姿を伝えてくださった、前市教育長牛山英彦さんと元松本大学教授の酒井秋生さん、そして両角先生のご家族の皆さんに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

博物館の朝はエネルギーにあふれています。というのも正面エントランス奥にある「裂き織コーナー」で、ある時はお一人で黙々とまたある時は二、三人で情報交換をされながら、熱心に集中しながら裂き織を織り上げている「ねじばな」の皆さんがいるからです。博物館の存在を世に知らせる「温かな」そして「凛とした」灯台のようななくてはならない存在です。今後もよろしく願います。そして、土日の博物館は一日中にぎやかなことが多い。それは、市民研究員の皆さんが夢中になって活動したり、ミヤマシロチョウの会や博物館で実施している「子ども達主体の工作や自然研究クラブ」が開催されたりしているからだ。学びの豊かさや楽しさに溢れています。

ここ「八ヶ岳総合博物館」は多くの地域住民の皆さんと共に博物館活動行っている。と一層胸張って言えるように、今後も大いに頑張りたい。ご協力をお願いします。

令和 2 年 3 月

茅野市八ヶ岳総合博物館
館長 両角徹生